

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立農産高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長、総務部
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主任教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当）、主任教諭（総務担当）、主任教諭（農場主任）、園芸デザイン科主任、食品科主任、主任教諭（1学年主任）、主任教諭（2学年主任）、主任教諭（3学年主任）、計12名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
大学理事長1名、中学校長1名、小学校長1名、公共機関職員3名、保護者代表2名、地域住民代表1名、保護司1名 計10名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月29日（水）内部委員12名、協議委員8名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出（文書による報告）
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換（文書による報告）
 - 第2回 令和4年11月29日（火）内部委員12名、協議委員4名
学校活動状況の報告について
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和5年3月2日（木）内部委員12名、協議委員5名
学校評価の報告及び学校運営に関する報告
協議委員へのアンケートの実施報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月29日（水）
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
質問項目の一部変更
 - 第2回 令和5年3月2日（木）
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理（文書による報告）

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 全校生徒 対象：365人 回収：284人 回収率：78%
 - ・12月 保護者全員 対象：365人 回収：200人 回収率：55%
 - ・12月 教職員 対象：46人 回収：31人 回収率：67%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、学科の在り方、特別活動・部活動、施設・設備、経営企画室の対応など
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・生徒、保護者ともに本校に対する満足度は高い。保護者はおおむね学校の特色ある授業内容に満足している。生徒からのアンケート結果から昨年度とほぼ同等であり、大きな変化は見られなかったが、コロナ禍における行事の縮小などの課題が見られた。今後、校内美化や部活動等については、環境整備を進めていく必要がある。保護者からの意見として、今後の課題として進路活動について1学年より段階的な情報提供を進め、系統的な進路指導を行う必要がある。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・教科担当者が生徒理解を深め、主体的、対話的で深い学びの授業法を実践するとともに指導計画、評価等についてさらに説明を行い、理解を得ることが大切である。
 - ・他校にはない特色ある教育活動を実践し、生徒の学校生活に関する満足度も高い。加えて地域貢献も盛んである。さらに、進路先も充実している。この進路状況をもっとPRした方が良い。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であると認識できた。
- ・家庭や地域との連携が重要であることが認識できた。
- ・地域防災について、地域の中で高校生に期待する部分が大きく今後も連携等を進めて欲しいとの要望を受けた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・ツイッターによる学校からの情報発信が好評である。恒常的に推進することが必要となる。
- ・力をつける授業を実践し、卒業後の進路を保証し、職業的自立をさせることが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・部分最適よりも全体最適を優先し、全ての教育活動を通じて、生徒の期待に応える教育の充実に努めること。
- ・見える化を通して情報の風を学校全体で共有することに加え、学校ホームページやツイッターなどの充実により情報発信を活性化し、地域・保護者とより一層連携を深め、共に生徒を育てること。

(2) 学習指導

- ・朝学習の活用を組織的に実践し、生徒の基盤学力を確実に身に付けさせる。
- ・専門高校としての特性を生かし、自己実現を図るためのキャリア教育を充実させる。
- ・大学、民間を含めた地域社会との連携により、学習指導要領にある「開かれた教育課程」を先駆けて実践する。
- ・授業研究を実践し「力をつける授業」を展開する。

(3) 特別活動

- ・今年度「農産祭」、「体育祭」の2大行事は規模を縮小して実施する事ができた。今後も継続的に活性化させる。
- ・各種プロジェクトを支援して、地域・社会に貢献するとともに、生徒に道德心を醸成する。

(4) 生活指導

- ・生活目標を認識させ、スクールアイデンティティを確立する。
- ・個別面談で生徒理解を深め、保護者との連絡を密にとると共に、問題行動を未然に防ぐ視点に立った生活指導をすることで退学生徒を減らす。
- ・いじめ防止の生徒指導の実践。講演会、ふれあい月間、いじめ防止アンケートを継続的に実施することで予防を徹底する。生徒・保護者に寄り添った対応を行う。

(5) 進路指導

- ・学校組織として系統的な指導を引き続き行い、生徒・保護者が安心できる指導体制を構築する。
- ・キャリア教育の全体計画に基づき、早い段階から計画的な進路指導を行い、就職・進学ともに実績の向上を目指す。
- ・キャリア教育の見える化を図る。

(6) 健康・安全

- ・生徒の課題の早期発見とその解決・改善のため、校内研修等により、教育相談機能を充実させる。
- ・今年度は、コロナ禍による健康管理を推進した。（サーモグラフィの設置、健康管理の徹底、校内消毒など）生徒の健康管理意識を醸成した。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人 回収7人（70%）

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない
2	4	1			

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

- ・会議とも、協議委員の参加実績はなかった。

8 その他

- ・アンケート分析のため、生徒、保護者、教員の質問項目の検討が今後も必要である。